

## ワットさんの今日の一首(2018年12月~2019年12月)

散り惜しむブーゲンビリアの花四つ 伝えたきこと伝ええずして (2018/12/7)

チュンチュンと催促の声いじらしや たんとお食べ われ万物の母 (12/16)

てっぺんのあの角部屋に住みたいと 見上げつ今年も銀杏の散りゆく (12/23)

朝に開け夕には閉めるカーテンが余命の一日(ひとひ)を平気で奪う (12/31)

気配してふと見上ぐればはっと消ゆ 亡夫(つま)は一人で鬼ごとしてる (2019/1/7)

パン投げるわれとも遊べ今朝もまた中の一羽を亡夫と決める (1/13)

いまに鳴る 呼吸(いき)とめて待つ訃の音が あの冬母はまだ生きていた (1/20)

生き死には一方通行 いま一度 きみのぬくもり シャンゼリゼの宵 (1/28)

ゆらゆらと 水絵に浮かぶゴンドラに 愛猫ジローと揺れてヴェネチア(2/3)

ゆく道の仕切り直しを今いちど 亡母(はは)の年まであと20年(2/10)

子ら去りて夫(つま)逝きし後のさみしさを母も耐えたり小雪舞う午後(2/17)

今朝もまた男物のみベランダに 赤があたたかアマリリス三鉢(2/24)

今生に借り遺さずに逝くという富士にもいまだ登りおらぬを (3/3)

薦(つた)一つはらり舞い落ついとしきはオー・ヘンリーの「最後のひと葉」(3/12)

もう一度やり直しても同じ悔い 胸にしまって終点まで乗る(3/18)

道端に濡れてひしゃげた手袋のつぶやきを聞くわれも片割れ (3/25)

燃え盛るカリフォルニアの火の中へわが亡がらは投げ入れて来よ (3/31)

「今日かぎりの命とおもえ詠めぬ日は」師は説くわれは頭(こうべ)を垂れる (4/8)

亡夫(つま)の名を花じゅうたんに寝転んで呼べば空からわれの名を呼ぶ (4/14)

公園に老いは集うや六時半 みな確かめる今日の命を (4/21)

抹茶色のベスト色褪せこれだけが母の形見よ乳の匂いす (4/28)

いずこにも倚 (よ) りかからない立つのだ じぶんの両足じぶんの耳目で (5/5)

アメリカの桜と呼ばれし花水木 (ハナミズキ)

子ら乗せ走ったハイウェイの日恋いし (5/13)

膝うづくヒールで闊歩の日は遠く 引きずりつつなおこの道ゆかむ (5/19)

黙々と落の皮むくかなしみは 未来が見えないむき終えたとき (5/27)

独力か孤独か「独」はどっちの意 今日も数独 関東はつゆ (2019/6/2)

かにかくに母もわが娘 (こ) を待ちしかや 息子 (こ) 帰ると聞きおろおろうれし (6/11)

深緑の箱根山越え眼前に芦ノ湖が出る海賊船に乗る (6/25)

ワットさん がん患者会の長として皆に寄り添う四十年も(河村さんの一首) (7/9)

今ここで時間よ止まれこの先は ただ「想念」を見つめ生きたし(7/22)

炎天に咲きくたびれて百日紅ひと夏の命終えるのも惜し(8/14)

盆客の去りてさみしや猫の背をなでて呟く「また二人きり」(8/21)

フィヨーナに日本名「芙蓉」持つ娘 名のごと育つ亡夫 (つま) に見せたし(8/27)

夏が逝く情けあるなら百日紅 われを一人にしないでおくれ(9/4)

あさげ待つ雀 20羽公園で みな吾子 (あこ) 家に連れ帰りたし(9/12)

雀っこ舞い来て見上ぐいとしきや 亡夫 (つま) の名呼んで

「あら、グッドモーニング！」(9/20)

ロンドンの凍てつく夜にバスを待つ 死を待つ夫 (つま) を見舞いて一人(10/4)

蔦 (つた) の葉が一つ舞い落つオー・ヘンリー「最後の一葉」取り出し読まん(10/11)

夫 (つま) 存れば八十三の誕生日 白ゆり 1本キャンドル 2本(10/16)

安楽死ついに叶わず夫 (つま) あわれ 答えはあるのや命の遮断(10/22)

訃報欄年をまず見る若ければ あげればよかった吾が年ひとつ(10/28)

朝5時半 天空全部私のもので 両腕広げタイタニック歌う (11/8)

三万のカシミアセーター日々着よう 我にあと幾たびの冬ありや (11/23)

黄泉の国に迷い込んだか渋谷駅 永六輔さん眼の前をゆく(12/1)

このソファで「冬ソナ」全話寝ずに見た 富樫さん恋いし冬の夜(よ)長くて(12/11)

がんと知り5年の命と腹くくる 37から生き直して80(やそじ) (12/18)

被災者のさみしさ思えこの時節 せめてぬくもり届けてあげよう (12/28)